

平成24年度第1回岡山県地方独立行政法人評価委員会の議事録

- 1 日 時 平成24年5月31日（水）13：30～15：00
 2 場 所 おかやま西川原プラザ第1会議室
 3 出席委員 末長委員長、小田委員、内富専門委員
 4 議 事

- (1) 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター平成24年度計画
 岡山県精神科医療センターが平成24年度計画について説明し、人材確保を目的に作成したプロモーション用のDVDを紹介した。
 続いて委員からの質疑が行われた。以下はその概要である。

委員発言要旨	事務局発言要旨
<p>教えていただきたいところが。1番で、社会復帰調整員というのを初めて聞いたので、どういうものなのかということ。</p> <p>5番にMRIとあるんですけど、何テスラのMRIを入れられたのか、入れられるのかということ。</p> <p>14番で、論文なんですけど、将来、連携大学院とか研究所としての格を社会に認知してもらうには、英語の論文10本というほうが、わかりやすい。発表は何回しても、あまり評価されないんで。</p> <p>23番で、セカンドオピニオンって、どれぐらい実際あって、どれぐらいな目標値、適正值ってないと思うんですけど。県民に対してセカンドオピニオンを提供するというのは、非常に大きなセンターとしての機能じゃないかとか。公平性というか、いろんな民間機関にかかっても、一抹の不安を持たれてる方がいると思うので、その辺で。</p> <p>32番で、医師事務作業補助体制って、何人ぐらい置かれるのか。</p> <p>45番で、医療資源、精神科資源の乏しい地域というのは、4施設とあるんですけど、地域で、どういうところを言っておられるのか。</p> <p>47番、アウトリーチも入れられておられますけど、教えていただいてないんですけど、やればやるほど結構大変で、ナースを使うのは何かもったいない。むしろ、さらに病棟スキルの方を参入していただけて、もうちょっと安上がりになるというんですか、そういったもののアイデアが欲しいと思ったり。</p> <p>53番で、病床利用率90%以上にするという、病院自体がどこまで個室化が進んでいるのか、このパーセントがどこが適正かは知らないんですけど、100%に近づけようとする、これを増やしていく方向ではないかなと。</p> <p>あと、62番の、特に私も医師の確保、非常に悩んでいます、DVDもいいんですけど、瀬戸内海の小島の直島とか、そこで一緒に企画を、全国から医師を集めるようなイベントを打つとか、そういうのもいかがでしょうか。おそらく関東から見て、非常にこれ、若い人にブランドとして映るのは倉敷とかアイビースクエアよりも直島とか、そういったものを試みたい。</p> <p>64番、医師の給料をどんどん上げて、集められるような環境もつくっていただきたいとお答えできる範囲でということ。</p>	<p>○岡山県精神科医療センター この職種は、資格は特にありませんが、心理学を専門的に勉強し、患者の社会復帰促進のために支援、指導できる人を想定しています。第2期中期目標を実現するためにもこういった専門職員が必要であると考えています。</p>

さっきのビデオに。

○岡山県精神科医療センター

MR I についてですが、0.4テスラの固定開放型を導入しております。

○岡山県精神科医療センター

はい。先ほどのビデオに出ていました。開放型の方が閉塞感もなく、音も静かだということで採用しました。一般医療では、日赤病院の整形外科くらいしか使われていないということですが、精神科としては良いのではないかということになりました。

それから論文について英語のペーパーにされたほうがいいのかというご指摘を受けました。そのとおりです。今後は英語論文へ推進しようと思っています。

○岡山県精神科医療センター

現在、英文ジャーナルに投稿中です。また症例報告も英文で投稿を準備しています。既に5, 6本は投稿しているので、今年中に10本いくと思います。また単行本への分担執筆も行っています。

○岡山県精神科医療センター

論文については、医師だけではなく、看護・メディカル職員についても含めておりますので英文に限定していません。

○岡山県精神科医療センター

続いて、組織の研究部門の設置のところでは、治験審査委員会(IRB)の平成25年度設置を準備しております。また、倫理委員会は現在年2回開催しております。治験審査委員会と倫理委員会との関係を整理して両者併せて開催回数が増えるように準備しています。

具体的な内容ですが、まずは治験の推進です。現在、既に契約しているものが2件、新規が2件。これらを細分すると長期治験・短期治験とがありまして、現在7件を行っています。新規が3件で、うち1件は第一相試験を行っています。具体的には、統合失調症・自閉症・小児の精神疾患の3つを今年はしっかり行いたいと思います。

もう一つはコンホート研究です。初発統合失調症が昨年80例新規受診がありました。それをコンホートでデータベース化、5年経つと400人のデータベースができることとなります。但し、クリニック等にボタンタッチした際に継続をどうするのかという課題が残ります。あと、これはまた内部での折衝をしておく上ですけれど、実際、研究を進めようとすると片手間にはできないので、概ね専任の医師1名と、データマネジャー、治験コーディネーター(CRC)とのセットの形で何とか4月を目途に設置準備をしたいと考えてます。

また、科研など他の医療機関及び研究機関とのネットワークも広がっているところです。

○岡山県精神科医療センター

医師支援班を設置し、専任の職員を2名配置することで、医師のスケジュール管理や今後の研究活動に関わる文献情報の提供などを行うことで多忙な勤務医の雑務の負担軽減を図ることが目的です。

○岡山県精神科医療センター

はい。この場合の医師事務作業補助は先ほど申しましたとおり、直接証明する作業などの事務ではありません。医事の書類関係の作成については必要な部署に派遣職員を配置して医師の手助けをしたいと考えています。

○岡山県精神科医療センター

次にセカンドオピニオンですが、診断においてセカンドオピニオンはまだ十分に機能出来ていない段階です。ただ、少しずつ統合失調症や広汎性発達障害者の診断についての見立

この医師事務作業補助というのは、書類、証明書のことではなくて、ですか。

についての照会は増えています。また一方で、治療困難事例の紹介は確実に増えています。また、児童精神科、依存症などの専門医療への受診についても増えています。

また、45番の医療資源の乏しい地域への医師の派遣ですが、東備地区の吉永病院に週に1回、非常勤医師を派遣しています。地域としての過疎地ではないのですが、岡山市民病院に週に2回、それから済生会病院に週に1回と総合病院の精神科へ非常勤として医師を派遣しています。また職業センターや吉備高原リハビリテーションセンター、児童相談所や家庭裁判所など常勤医師がいないという場所にも積極的に派遣しております。

続いてアウトリーチチームのことでありますが、実はこの新規事業とも連動するものと考えてまして。この精神障害者の地域生活を支える訪問・通所型医療中核センターというところは、自病院の患者さんを受けただけでなく、クリニックなど地域医療機関から紹介を受けて必要な支援を組み立てていく予定です。

続いて、医師の募集についてはなかなか大変です。初期研修は年間50人新卒医師を受け入れております。その初期研修の卒業生に、精神科後期研修パンフレットや募集要項を送付するほか、リクルート専用のホームページも作成する予定です。さらに、大阪・東京、岡山などで開催される後期研修説明会には継続的に参加し見学者を増やすことが目標です。

○岡山県精神科医療センター

補足させていただきますと、当センターでは初期・後期の研修生を受入れる際に以前は、初期研修医について非常勤職員として扱っていましたが、現在は常勤の臨時職員ということで採用しております。後期研修医についても期付職員という扱いをしており、常勤職員並みの給与を支給しております。

○岡山県精神科医療センター

また、医師の採用については、先生がおっしゃるように全国区にはなっていません。関西圏からは各年1名ほどは来ておりますが、やはり研究部であったりなど、もう少し臨床が形に見えてプロモーションができるともっと人が集まるのかなというふうに思います。

○岡山県精神科医療センター

先進医療としてTMS(経頭蓋磁気刺激)、そしてNIRS(光トポグラフィー)についても準備を進めています。

○岡山県精神科医療センター

それから、病床利用率の90%といったような話をいただきました。

特に今、依存症の病棟がかなり空いている状況があります。今後、プロモーションをして一般医療との関係を少し構築しないとなかなか難しいのかなと思っています。各病棟の病床をどういった配分で利用するのかということをもう一遍考え直す必要があるのかなと内部では話し合っております。現実的には、病棟ごとに特性別に分けております関係上、なかなかどこでもいいから入院させるというようにはいかないという事情です。

○岡山県精神科医療センター

県から受託している精神科救急情報センターについて、現在、非常勤職員が0時まで対応し、0時から定時までには精神科救急情報センターとしては運用しておりません。今後はコ

開放型のMRI、いいと思うので、何か若いドクターを引きつけるという意味では、機械としてはもう、ほぼ完成してると思えるんですけど。3テスラのMRIもあると、若いドクターにはいいのかなとも思って。

4番で、全職員参加型の24時間体制を構築というふうなことを書かれてあるんですけども、これは具体的にはどのようなことをお考えなんでしょうか。

ということは、夜勤部分を全職員で回していくというふうな意味の。

わかりました。

11番で、研修会参加、年10回以上というのは、1人ですか、それとも組織全体での話ですか。

それだと、はい、わかりました。ちょっとわからなくて。

主催・開催を10回以上するというのですか。わかりました。参加をするにしては、1人ではすごいし、組織全体としては10回じゃちょっと情けないなと思いましたので。そういうことですか。

それから、26番で、後発医薬品採用率20%以上と出ているんですけど、これは後発医薬品が利用できる薬の中で2割ということですか。

全体ですか。そういう後発医薬品が利用できる中での採用率は、なかなか出ないんですか。むしろ、そう書いたほうが、より後発医薬品を採用しているというイメージに結びつくと思うんですけど。

なるほど、なかなかそういう数値は出てこないということですね。

わかりました。

それから、60番という、66番とも関連するのもわかりませんが、用地取得とか、あるいは電子カルテとかということで、いろいろ設備投資を今回考えられていると思うんですけども、この資金の源泉といいますか、これは内部留保を考えられているんですか。それと

メディカル職員や事務職員で準夜・夜勤、休日について対応し全職員で24時間の相談体制を構築していくということです。

○岡山県精神科医療センター
はい、そのとおりです。

○岡山県精神科医療センター
絶対数が足りませんので、事務職員についても参加する方針です。

○岡山県精神科医療センター
これは組織として研修会へ年10回以上参加するということです。

○岡山県精神科医療センター
組織として主催・開催を10回以上行うということです。

○岡山県精神科医療センター
ではなくて、購入医薬品全体の2割ということです。

○岡山県精神科医療センター
一般医療も全部合わせて考えますと、全体の先発の医薬品のうちの三十数%ぐらいしか後発医薬品はまだないのが現状です。その全体に占める2割ということなんで、その中の6、7割、あるいは8割近くを占めていることになるのです。その度数が年々増えていって、後発医薬品のシェアが増えていきますから、なかなか今書いてるパーセントがどうかというのがわかりにくいということで全体に占める割合で設定しております。

○岡山県精神科医療センター
そうなんです。

○岡山県精神科医療センター
後発医薬品の採用は進めています。但し、最近、麻酔薬でアナフィラキシーショックが起きました。薬の成分は良いのだけれど、その薬を溶かしている成分が何であるかは問わないので原因は、後発医薬品だからじゃないかという疑いがあります。そこで命にかかわるものについては、やはり後発医薬品じゃないものを採用していく方針です。しかし患者さんの費用負担の面から、何とか20%というのが実際ぎりぎりのところですよ。

も、さらに借入れを考えられているのでしょうか。

すべて内部留保で。

17億円以上あるということ。

用地交渉中という意味ですか。

62番で、採用予定としては、年間、何人ぐらいを予定されているのでしょうか。DVDとか作成されて、大学等の説明会参加とか、いろいろ考えられているようすけれども。

基本的には、薬剤師をメインにという。

非常に効率的に説明いただき、また効率的にお答えいただきまして、ある程度、理解できました。

それで、66項目に非常にわかりやすくということで、数値目標を上げながらということで、こういったことを続けていっていただくと。岡山の精神科医療センターは競争力を持っていると思いますので。

この、できる人たちをどういうふうレベルアップしていくかということと、それから新たな人たちを募集という、いろんな格好で中に新たなものが出てくるということで、大変、そういうことで楽しみな格好になってきたという気がいたしますし。

それから、今は何か人が余っていて、就職するところが不足しています。いずれにしても、これからは働く人が少なくなっていくわけで、そういった中で本当に人材をいかに確保していくかというのが、どんなところにおいても勝負になってくるんじゃないかなという気がいたします。

それで、この中ではまた、いろんな組織の中での差が出てくるということですし、その組織も、よりレベルを上げようとする、よくやっても、よくやられなくても一緒というのは、これはなかなかないだろうと。みんなで、全体が底上げでよくなってきた時代はまだ比較的、それでもよかったんですけども、そういう時代でもないとなると、その中でやりますと言っていたらとおり、いかに配分していくかという、これも非常に、今以上に大切になってくるだろうという気がいたします。

それで、私、ちょっと思ったんですけども、これ、組織でこういうことをやってるんですけど、理事長の待遇とか何か諸般が置き去りになってるんじゃないかなという気もしたんで、そのあたりも、ここでは出てこないですけど、検証していったらいいと。理事長もまだまだ頑張っていたらいいんですけども、ある意味では理事会で理事としての仕事もあるわけで、これ

○岡山県精神科医療センター
借入れは考えておりません。

○岡山県精神科医療センター
はい。

○岡山県精神科医療センター
そうですね、平成23年度の内部留保で行います。1つは、まだ契約が済んでおりませんので。

○岡山県精神科医療センター
はい。

○岡山県精神科医療センター
今現在、緊急の課題は薬剤師の確保です。医師や看護師についても退職や新しい事業を行うために今後も確保の必要があります。これから新しく組織を構築していきながら、適正な人員数を職制の中で決めていきます。

○岡山県精神科医療センター
今のところは薬剤師の採用に力を入れています。

はまた次の人も、そういうのも含めて考えると、世間の相場というのもいろいろ今後検討して、それに適応した格好になってないと、それが続いていかないということになるわけですから。そういうふうになってればいいわけですけど、そういうのもまた見ていただけたらと思います。

- (2) その他
今後の日程について確認。挨拶等